2022 年 3 月 23 日 10:00～12:00
松川町役場 2F 協議会室・大会議室

令和 3 年度第 2 回　松川町ゆうきの里を育てよう連絡協議会議事録

1. 開会・進行

田中課長

2. 挨拶

宮下智博町長・・・子供の給食のためにありがとうございます。主要品目の有機食材の利用率が R2 が 9.9%、R3 は 28%となった。サステナアワードでも表彰され、徳島県で行われたオーガニックエコフェスタでも、松川町の事例発表をするなど、注目されてきた。参加者が増えてくれるとよいと思っている。

3. 協議事項

（1）令和 3 年度事業報告・(2）令和 4 年度事業計画（案）　説明：宮島

吉田さんからアドバイス

全国的に見ても学校給食に有機食材を利用している自治体は少ない。千葉県いすみし、木更津市、愛媛県今治市、大分県綾町、臼杵市が先進的に行っている。

国のみどりの食料システム戦略を打ち出している。2 月の県議会では、中川県議が松川町がサステナアワードを受賞したことを周知された。

全国的には米価が安くなる中、いすみ市では 2 ㎏で有機 JAS を取得した米を 1,400 円で販売している。消費者はこれを購入する。

学校給食に利用するには有機 JAS はいらない。認証制度に取組んでいる臼杵市や、埼玉県小川町などある。

土壌については研究が進んでおり、有機農業に必要なこともわかってきているが、虫のことについてはまだまだ不明なことが多い。愛媛大学の日高教授が研究をされている。虫のことはあまり知らないので調査してもらえるとよいのではないか。

意見交換

中央小木下栄養士　県の教育委員会でも関心があるようだ。栄養士が気にするのが価格の面で折り合うかどうかということ。価格的には少し割高な有機給食を作るには、値上げしないための後押しが必要。

学校の先生たちも興味があるようで、R4 は学校でも様々な取り組みをしてきたい。

中学校片桐栄養士　子どもたちの反応がすごくある。ニンジン毎日利用した。

北小　本多栄養士　当たり前のように、毎日の給食で有機野菜が食べられるのはとても幸せな環境。

（3）農地の引き渡しができる法人立ち上げについて

・検討委員会の組織案について　説明：宮島

吉田さんからアドバイス

農地の集約化は非常に重要だと思っている。圃場レベルでの土壌での微生物管理についてはかなりわかってきている。吉田俊道氏だけでなく、立正大学の内山和成教授や立命館大学生命科学部の久保幹教授の SOFIX 等、健全でバランスが取れ、無農薬でも病気が発生しない微生物についてはかなりわかってきている。けれども、病害虫はかなり難しい。

IPM とかでは天敵が増えれば病害虫が防げると簡単に思われ、有機農業学会でも農林水産省の研究者がクモが増えれば無農薬でできると簡単に述べているが、愛媛大学の日鷹准教授によれば陸上生態系の管理はそれほど簡単ではない。ヨーロッパではランドスケープレベルでの病害虫が発生しにくい植生管理の研究がなされているが、日本はそのあたりが遅れている。高知県の篤農家、田村雄一氏はまさにランドスケープでの有機農業をやりやすい植生管理を GIS データ(土壌、日射量)等のデータと組み合わせ健全な土地管理をしている。これからは、平場で面として大規模に法人等が担うエリア、小規模家族農家が自給的に多様な有機農業を行うエリア等の農地のパターンがあればできたらいいのかなと。

宮下町長　松川町では専業農家を増やすわけではなく自給的農家も考えている。例えば、牛久保さんも元はサラリーマンである。こうした人が今後も出てくると。それを地域として増やしていく。

4. 講演会

「有機農業と学校給食」～コロナの中で注目！～

長野県有機農業推進プラットフォーム担当　吉田太郎氏　　～　資料参照　～

5.閉会挨拶

松下敏章農業委員会長